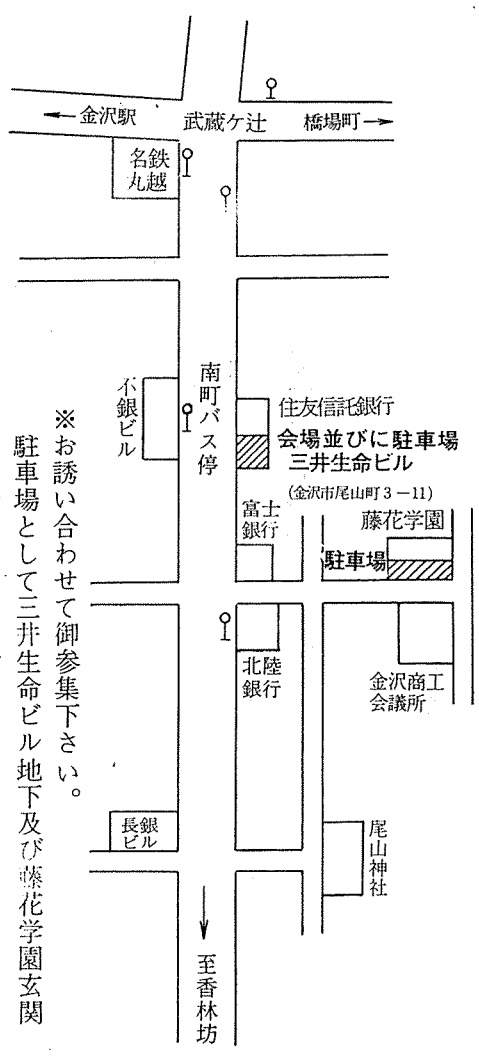
発行所
石川県保険医協会準備会
発行人　松本吉典
金沢市泉1丁目5番71号
☎（0762）43―6773

石川保険医新聞

☆保険医協会な保険医の生活と権利を守る。
☆保険医協会は国民の健康と医療の向上をはかる。

石川県保険医協会結成大会 会場並びに駐車場案内図



※お誘い合わせて御参集下さい。駐車場として三井生命ビル地下及び藤花学園玄関をお借りしています

保険医協会結成にあたって

設立準備会代表　早瀬光

はじめに

昭和四十八年九月に発足した保険医協会準備会も何度か有意義に繰り返す中に漸く本年五月二十五日待望の保険医協会結成総会を開く段取りになったことは誠に慶賀に絶えない次第であります。

此処で原点に戻り保険医協会の目的を今一度ふり返ってみる必要があろうと思われます。

協会の性格について

社団法人石川県医師会の目的やこれを達成するための事業は皆様周知の通りでございますが、保険医協会の目的は

(1) 保険医の生活と権利を守る。

(2) 国民医療の充実と向上を図る。

実に簡単明瞭であります。

申す迄もなく協会は医師会とことごとく対立することを目的とするものでなく、思想的にも医師会と同じく無色のものであるから医師会と相協力し、補い、また忠言することによって会員に喜こばれる大いなる効果を挙げ得ると考えており、我々は学術団体である医師会がやり難いようなことを敢えて取り組み、いやなことに手を突っこむことも敢えて辞さない覚悟であります。保険医協会は確かに親切で痒いところへ手の届くような指導もされております。

その様なわけで、保険医協会はすでに多くの都道府県に設立されており、全国的には連合会として「保団連」の名で呼ばれ親しまれています。

今後とも月例の保険診療向上研究会や保険医新聞をはじめ日常の活動を続けて参りたいと思います。

低医療費政策のもと

現在の日本は未だかってないインフレと不況の嵐にふりまわされ、企業の倒産、操短、賃金カットなど暗いニュースの中で国民の抱く社会不安は一向に好転する気配はありません。この嵐の中で一番強い風当りを受けているものの一つが我々保険医療機関であることは今更、言を待ちません。

昨年二回に亘って行なわれた点数引き上げも政府の宣伝による引き上げ幅とは遥かに下廻るものであり、医療荒廃の改善には程遠いものであった。正しい医療の確保はどんな社会情勢の中でも最も優先して守られなければならないにもかかわらず、逆に一番のしわ寄せを受けている事実を保険医の立場から直視しなければなりません。

我々が現在の社会不安の中で開業経営を守り、国民の医療を支えるために努力することは、国民のくらしを守るための要求と基本的に一致するものであり、その意味で国民の中で幅広い支持を得られるものと思います。

二十八％課税について

昨年暮の二十八％改廃問題についての政府やマスコミの悪宣伝を打ち破るためには、医療の真実を明らかにすることが出来るのは医師であり、また医師こそが正しい医療の現状を国民に知らしめなければならない立場にあることを自覚して国民と共に強力な運動を推し進めることが必要であります。

顧みます時、過去十七年間、物価指数は三・一八倍になりましたが診療報酬は僅かに一・九九倍になったのが実状であります。之によっても我々保険医の生活が如何に苦しくなっているか明瞭であります。二十八％税制問題にしても医療の本質を無視して「不公平税制」として改廃が意図されていますが、二十八％税制を堅持しながら適正な診療報酬を克ち取るためにともに努力する必要があると思います。

協会の発展を

さていづれにしましても我々保険医の殆どすべての方々は真面目に毎日の診療に従事している方々ばかりであります。我々は将来ともに医学を基本とした学術的事実を根拠として日夜診療に従事し、ともに研究会を医療に生かして行かなければなりません。

今後、とも皆様方の強力な御援助によりまして益々発展するよう努力する所存でございます。切によろしくお願い致します。

総会次第

とき　昭和五十年五月二十五日（日）
午後一時半～四時半

ところ　金沢市尾山町三―十一
三井生命ビル四階会議室

第一部　（午後一時半～三時）

一、開会のことば
一、議長選出
一、来賓祝辞
一、議事
　第一号議案　経過報告並びに石川県保険医協会結成に関する件
　第二号議案　昭和五十年度活動方針に関する件
　第三号議案　石川県保険医協会会則に関する件
　第四号議案　石川県保険医協会準備会決算及び昭和五十年度予算並びに会費に関する件
　第五号議案　役員選出に関する件
一、役員代表あいさつ
一、「保険医へのよびかけ」採択
一、閉会のことば

第二部　（午後三時～四時半）

一、記念講演と懇談会
　講師　全国保険医団体連合会会長
　　京都府保険医協会理事長
　　中野信夫氏

声

保険医協会へ入会したこと

（小松　耳鼻咽喉科）

最初に保険医協会を知ったのは、もう五年位前だったろうか。全国保険医新聞が宣伝用に送られてきた時である。健保の事務量が次第に増加するのと人件費が急増し、人も少なくなりつつある等、医療の矛盾がひしひしと迫ってきた時だった。医師会のあり方も上意下達型で私達の望むあり方とは大分かけはなれていた。多額の政治資金を使いながらも次第に保険が圧迫されて行き、政管と組合との格差がますます増大して行くのは何ともやり切れなかった。

そんな中で私達の言いたかったようなことがかなり思い切ったように書かれており、最終頁の健保の請求明細書の実例なんかも興味深かった。すぐ購読者になり、暫くして既に会員になっていた先生から入会を誘われたこともあったが、テキストが内科関係が殆んどだったようでなかなかふみきれなかった。

そんな時である。本部から事務局の方が来られて勧誘をうけた。殆んどその気になっていた私はそれをきっかけに入会することにした。

医師会の方も耳鼻咽喉科の処置料減点から保険医総辞退等を経験する中で、大分雰囲気も変ってきたし、保険医新聞の論調も会員の増加とともに穏やかな表現に変ってきたように思う。

医療費を上げることとなるべく患者の負担を少なくして早く治してあげたいことと矛盾にいつも悩んでいるこのごろである。

保険医協会は医師会と屋上屋にはならない

（金沢　内科）

京都の保険医協会々員数は日医A会員数の百三十％強となっている。日医会員数より多いのである。保険医協会事務局は医師会館の中にあり、全く医師会と表裏一体の活躍をしていて、関係当局からの連絡や通知も医師会と保険医協会の両方に送られ、役所に人事移動があった時は、いづれにも挨拶に来る。そして毎日協会事務局へ会員から保険点数、請求事務、その他色々の相談や問い合わせの電話がかゝりベテランの事務局員が丁寧に応待しているそうです。結局、医師会はこの分だけ労力が省けて保険以外の事に力が出せることになり、京都の医師会活動は他県の活動よりも却って活発になっています。日医の手前やり難いことは保険医協会で素直に出来るとの事です。

現在の日医活動は内政、外政面とも武見会長の一人舞台になっていますが、武見会長が現在のように政府や保険者を相手にいつまで元気で相撲が出来るか疑問である。余り強力な親の庇護の下で育った子供が親を失くした時のみじめさを考えるとやはり今のうちから京都のように下から自主的な力の結集を内蔵した医師会にしておく必要がある。

なお、保険医協会については休業保障の内容をもっと大きくする時勢になっていると思うので早急に再考を促したい。

石川県保険医協会に望む

（金沢　産婦人科）

(1)「石川県保険医協会ですが」とY先生に電話すると「あの共産党のですか」と返事がかえってきたので「ビックリ」した。その他「共産党がやっているのでしょう」とくるのである。まあ一言で云えば認識の違いにあることになるが、石川県保険医協会の先生方はこの点を明白に説明しないとこれ以上の会員増加は望めない。石川県保険医協会は絶対に共産党の一機関ではないP・Rを。

(2) 石川県保険医協会は決して医師会を敵とは思ってもいないし、末端開業医諸君と県・市医師会との緩衝地帯となって保険制度に限って色々な相談役になりたいと念願している。

(3) 保険レセプトの提出に当って、これは馬鹿みたいな質問で笑われやしないかなと思うような点の相談相手になってゆく。

(4) 石川県保険医協会には何も権力がない。会員で悪いことをすればその会員を助けると誤解されるような行動はとれないし、たゞ無理解のために知らないで審査員から悪い奴との印象を受けないように新入会員への指導はできる様にお互い勉強してゆきたい。

(5) 石川県保険医協会は皆さんの会であるし、保険加入者の会である。たゞこれだけの事と理解している。

保険医協会加入の動機

（金沢　内科）

保険医協会への加入の動機ですか。そうですね。私の場合、極めて自然に何の抵抗感もなしに加入したように思います。。私が開業した当時（四十二年）開業医を取りまく医療情勢は極めて厳しいものでした。今でこそ医師会保険担当の先生方の努力で非常に緩やかになりましたが、当時は制限診療・経済診療（保険財政の為の）が押しつけられ、時には理不尽と思われる程の厳しい審査が行なわれました。それ故に我々の診療行為は、患者の疾患の状態を考慮する以上に審査の目を強く意識した、所謂萎縮診療以外の何ものでもありませんでした。その為に我々は患者に対して（疾患に対して）その診療行為のもどかしさと査定・審査の矛盾とをかかえながらお互いに苦しい診療を行って居りました。

或る時、保険指導（集団指導）を受けました。その時担当の某先生は、私のカルテを調査した後「何の不正も間違いもありません。治療内容もカルテの記載も的確です。先生をお呼びしたのは県の保険課より、先生の平均点数が非常に高いから指導する様にとの申し込みがあったからです。保険も経済ですのでその点もう少し考慮して下さい」と云われました。当時石川県の平均点数が二百点台であったと思いますが、その時私の平均点数は五三四点でした。毎月の請求明細書も頭から注射の本数・検査内容がどんどん否定されて居りました。正しい診療行為を行なっても査定を前提とした保険審査の為に自然に萎縮診療になってゆく時代でした。

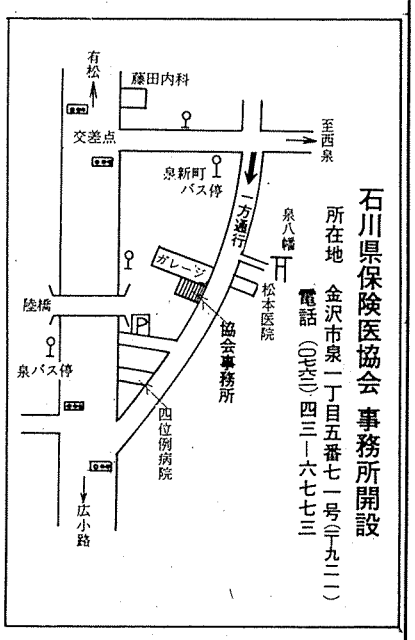
昭和四十何年でしたか「制限診療撤廃・診療報酬の是正」をスローガンとして医師会が決起集会をやったことがあります。この時私はこのスローガンに甚だ矛盾を感じました。それで大会の席上で「立派なスローガンを掲げる前に、医師会内部に存在する査定、診査、制限診療の思想を一掃する事が先ではないか」と発言しました。この当時の発言としては勇気のいる発言であったと思います。

以上の様な伏線の前提に立って保団連の存在を知り、保険医新聞の購読者になりました。そして保団連の活動があく迄も保険医の利益擁護、生活保障、診療行為の自由擁護が目的であることを知り、その主旨に共鳴して加入しました。一部の人は赤だとかピンクだとか申して居りますが、それは全くの誤解であり、認識不足であります。また医師会と対立する団体でもありません。正しい保険診療を擁護し、保険医の診療活動・生活擁護を行ない、そして正しい事を正しいと発言できる団体であると信じます。そこには何らのイデオロギーも関係して居りません。一人ひとりがおのおの自分の信ずる思想に生きることは自由です。しかし団体としての統一思想（イデオロギー）はありません。ただ目的はあくまでも保険医を守る団体であるということです。

今後とも現実をふまえ、将来の明るい展望に向って着実に活動してゆくことを期待します。

石川県保険医協会 事務所開設

所在地　金沢市泉一丁目五番七一号（〒九二一）
電話（〇七二）四三―六七七三



メリットのある協会を

（小松　小児科）

数年間入っていた京都府保険医協会にもマンネリを感じていた時、同級生のK君から石川県の保険医協会に入会しないかとおさそいを受けた。そこで漫然と加入して早や一年が過ぎ去った。しかし残念ながら一年間を通じて私にとってはメリットは少なかった。京都の場合、薬価基準の改定があれば中和印刷のものをすぐ送本してくれたし、また医学通信社からの治療基準卓見表も改定毎に戴いたし幾分プラスがあった。石川県ときたら保険医新聞と心電図の案内状だけだ。もっとも京都と石川では会費も歴史も較べものにならないが、各科の点数がかなりアップしている現在、こういった保険医協会の運動も一つの壁にぶちあたっているのではないか。

保険連への要望・期待

（松任　外科）

最近、保団連より郵送されてくる出版物を見て、無駄ではないかと思われるものがあることに気付きました。例えば薬価基準変更の際の常用薬の薬価基準速報の新聞です。これなどミスプリントもあるようですし、医師会から完全なものがかなり速く入手可能です。同様に以前送付されてきた診療報酬点数表及び点数表にない準用点数表なども類似の出版物が多く出ている現在、わざわざ保団連が作る必要がないと思うのですが如何でしょうか。これに対し、一症例につき、その治療及び点数のとり方の研究等の記事は、保団連ならではの内容といつも感心して読んでいます。

日本医師会の一見抽象的とも思える運動に対して、保団連のその実際的な運動はあらゆる面においてお互いに協調し合い今後ますます発展してもらいたいと思っております。

保団連・協会の発展を

（金沢　内科）

何事につけ新しいことに慣れるまでにはかなりの時間がかかるものである。生来北陸人である私もその例にもれず、保団連の会員になってはみたものの当初は活動方針その他について疑念がなかなかとれず、結局本態を理解するのに少なくとも二年はかかったことになる。二年間の歳月を通して、新聞、雑誌での知識もさることながら、本部役員の先生や事務局員との対話から得た結論は、現在の医療環境にある我々開業医にとって保団連の考え方や活動方針が非常に有益であり、かつ重要なものであることであった。

いわゆる学術団体としての医師会との関係にしても、開業保険医団体である保団連の会員であることとは何ら矛盾するものではなく、また体制に反対するアカその他の中傷にしても全く根拠のないものであることがわかった。

今後、保団連・保険医協会が正しく発展することが勤務医をも含めた医師会の発展を促し、さらに地域住民の福祉に大きな益をもたらすであろうと期待しているものである。